山梨市立後屋敷小学校

思考力・判断力・表現力の育成
～言語活動の充実をとおして～

Ⅰ．主題設定の理由

（１）本校の児童の実態から

本校では数年前より「思考力・判断力・表現力の育成」について研究を進めている。昨年は「国語科・算数科・英語科における言語活動の充実をとおして」をサブテーマに設定し，言語活動をクローズアップした研究を行った。実際の授業では自分のアイデアを分かりやすく発表したり，自分の解釈に沿って相手に伝わるように音読をしたりする活動から，思考力や表現力の向上が見られた。また，意図的に隣人と説明し合う場面をとるようにしたり，自由に思ったことを発表できる場を作ることによって，子どもたちが言葉で表現することへの抵抗感が以前に比べ薄らいだように思われた。しかし，出された意見に対して，吟味してさらに考えを膨らませようという学び合いの姿勢はまだ十分に育っているとは言えない状態であった。

そこで本年度も引き続き，基礎的・基本的な学習をベースにしながら，言語活動を取り入れていくことにより，本校が目指すテーマ「思考力・判断力・表現力の育成」の目標に近づくことができると考え，本主題と副題を設定した。

Ⅱ．研究の内容

１　研究の内容と方法

（１）研究テーマに関わった理論や先行研究を学ぶ。

（２）ブロック別の研究会（低・高学年の２ブロック）

（３）一人一実践の取り組み

（４）英語の学習会と研究

（５）特別支援の学習会（夏季休業）教育機器の学習会（夏季休業）

２　研究実践

（１）学習会

６月　英語について　　講師　県義務教育課　　長田　修一指導主事

８月　特別支援教育について

講師　新しい学校づくり推進室　　近藤　晴樹先生

（２）授業研究

第５学年１組　　算数科　教材名「図形の角を調べよう」

授業者　飯島　裕明教諭

○言語活動に関わって

ア）自分の考えたことを，わかりやすく表現・説明する活動

イ）友人のアイデアを聞き，自分のものと比較する活動
ウ）本時で分かったこと，分からなかったことを記述する活動

指導助言　峡東教育事務所　指導主事　小林　俊彦指導主事

第１学年１組　英語科　「どの色が好き？」

授業者　今澤　比呂樹教諭

指導助言　山梨大学教職員大学院　教授　長瀬　慶來先生

（３）授業実践

第１学年２組	国語科「すきなもの，なあに」	授業者	広瀬　美穂教諭
第２学年	算数科「計算のしかたをくふうしよう」	授業者	海沼　潤子教諭
第３学年	国語科「にた意味の言葉，反対の意味の言葉」	授業者	岡村　理恵教諭
第４学年	音楽科「いろいろな音色を感じとろう」	授業者	川﨑　幸江教諭
第５学年２組	国語科「豊かな言葉の使い手になるために」	授業者	窪田　真由美教諭
第６学年	社会科「どんな時代」	授業者	深澤　真人教諭
すみれ学級	自立活動　「おそうじ名人になろう」	授業者	守岡　志のぶ教諭

Ⅲ．成果と課題

（１）成果

・「校内研でめざす子ども像」や「発表のしかた」を教室内に掲示することで，日常の授業の中で意識して指導することができた。
・学年に応じた言語活動を行い，それを積み重ねていくことで，学んだことを次の学年，次の学年と引き継ぐことができているように感じる。
・様々な教科での取り組みが行われ，教科の特性を考えた工夫ができていた。また，参考にもなった。
・地道な積み重ねで，言語活動の力は少しずつ伸びつつあると思われる。
・一人一実践の機会が設けられることで，忙しい中でも焦点を絞った授業案の研究をすることができた。同時に，子どもたちの成長も見られ，それぞれの学級の実態を知ることができてよかった。
・講師の先生をお招きしたり，研究授業での助言が役立ってよかった。
・様々な教科での子ども同士の「意見交流の場」が見られよかった。
・児童に付けたい力の共通確認をしたことは，その担任のみでなく全校で意識することができてよかった。

（２）課題

・年間を通して「言語活動」に取り組む実践は，どのようにしていったら効果的か等，さらに研究を深める必要がある。
・児童に人前で話すという場数をたくさん踏ませてあげたい。
・限られた時間であるが，研究を継続していくことが大切だと思う。

（研究主任　海沼　潤子）